

第 5 次岡山県廃棄物処理計画（素案）からの変更箇所

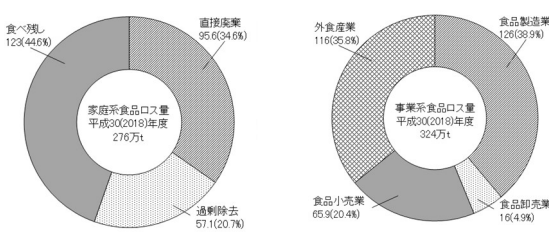
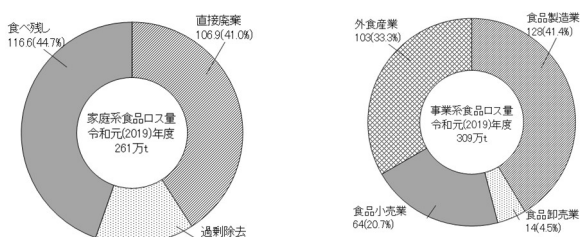
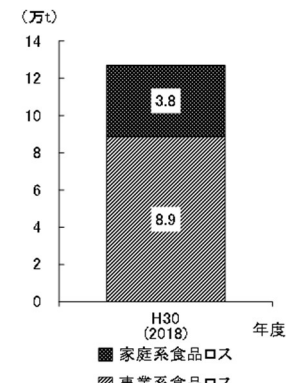
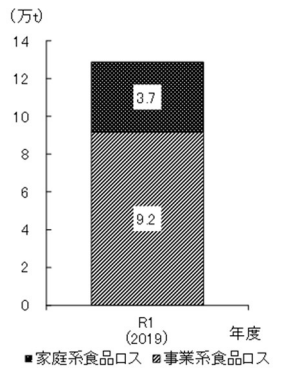
1 意見を受けての変更

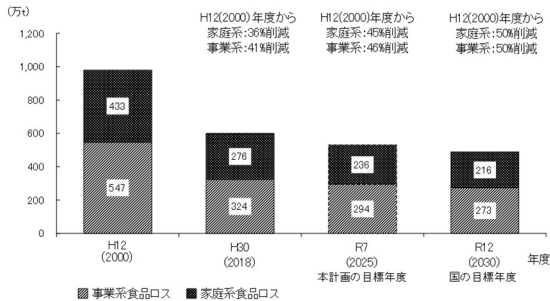
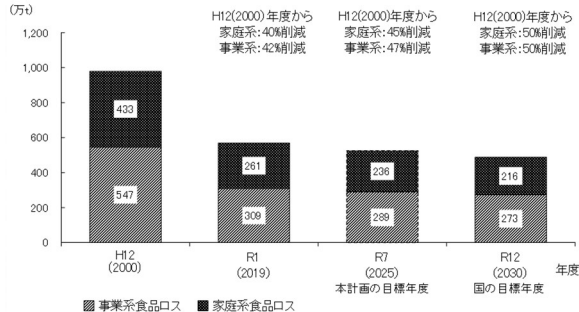
頁	変更前：第 5 次計画（素案）	変更後：第 5 次計画（案）
6	2. 6つの基本方針に関する施策の方向性及びSDGsとの関連性 (1) 排出者の責務の徹底・強化 この考えに基づき、廃棄物対策における排出者としての責務の徹底と強化を図ります。	2. 6つの基本方針に関する施策の方向性及びSDGsとの関連性 (1) 排出者の責務の徹底・強化 この考えに基づき、 <u>県民、事業者双方が協力し、</u> 廃棄物対策における排出者として、 <u>それぞれの立場で</u> の責務の徹底と強化を図ります。
87	3. 岡山県の食品ロスに関する課題 消費者に対しては、期限表示に対する正しい理解への啓発等を行う必要があります。	3. 岡山県の食品ロスに関する課題 消費者に対しては、 <u>家庭系食品ロスにおいて直接廃棄と食べ残しの割合が高いことから、</u> 期限表示に対する正しい理解への啓発 <u>や、家庭での食べ残しを減らすポイントについての情報提供等</u> を行う必要があります。
92	(1) 県民・事業者に対する普及啓発等 新規 ・商慣習見直し等を含めた食品ロス削減に資する取組について普及啓発 ロゴマーク「ろすのん」の周知及び食品ロス削減に取り組む企業・団体による積極的な活用の推進	(1) <u>県民</u> に対する普及啓発等 新規 重点 ・商慣習見直し等を含めた食品ロス削減に資する取組について普及啓発 (削除)
94	(2) 事業系食品ロス削減の推進 新規 主な取組 ・食べきりや持ち帰りについての周知 ・食品流通の合理化、フードシェアリング等の新たなビジネスを含めた新技術の活用による食品ロス削減の取組を促進	(2) 事業系食品ロス削減の推進 新規 主な取組 ・需要予測の高度化や受発注リードタイムの調整等による適正受発注の推進 ・食べきりや持ち帰りについての周知、 <u>啓発の推進</u> ・ <u>ロゴマーク「ろすのん」の周知及び食品ロス削減に取り組む企業・団体による積極的な活用の推進</u> ・ <u>需要予測の高度化や物流の効率化による</u> 食品流通の合理化、フードシェアリング等の新たなビジネスを含めた <u>ICT、AI等の新技術の活用による食品ロス削減の取組を促進</u>

頁	変更前：第5次計画（素案）	変更後：第5次計画（案）
102	5. 県の役割 3Rの推進及び廃棄物の適正処理に関する意識啓発 ○おかやま・もったいない運動等の各種啓発イベントや各種広報媒体を通じた普及啓発を行い、ごみの排出抑制、減量化、リサイクル、再生品の使用等を推進する。	5. 県の役割 3Rの推進及び廃棄物の適正処理に関する意識啓発 ○おかやま・もったいない運動等の各種啓発イベントや各種広報媒体を通じた普及啓発を<u>マスコミ、消費者団体、NPO等様々な主体と連携して</u>行い、ごみの排出抑制、減量化、リサイクル、再生品の使用等を推進する。

2 国の食品ロス量（令和元年度推計値）公表を受けての変更

頁	変更前：第5次計画（素案）	変更後：第5次計画（案）																																																																				
85	1. 我が国の食品ロスの現状 国が発表した平成 30(2018)年度の食品ロス量 600 万 t ・家庭系食品ロス量 276 万 t ・事業系食品ロス量 324 万 t ・国民 1 人当たりの食品ロス量 1 日約 130g（茶碗約 1 杯分のご飯の量に相当） ○食品ロスの内訳 ・家庭系食品ロス 直接廃棄 95.6 万 t 過剰除去 57.1 万 t 食べ残し 123 万 t ・事業系食品ロス 食品製造業 126 万 t 食品卸売業 16.0 万 t 食品小売業 65.9 万 t 外食産業 116 万 t	1. 我が国の食品ロスの現状 国が発表した<u>令和元(2019)年度</u>の食品ロス量 <u>570 万 t</u> ・家庭系食品ロス量 <u>261 万 t</u> ・事業系食品ロス量 <u>309 万 t</u> ・国民 1 人当たりの食品ロス量 1 日<u>約 124g</u>（茶碗約 1 杯のご飯の量に<u>近い量</u>） ○食品ロスの内訳 ・家庭系食品ロス 直接廃棄 <u>106.9 万 t</u> 過剰除去 <u>37.6 万 t</u> 食べ残し <u>116.6 万 t</u> ・事業系食品ロス 食品製造業 <u>128 万 t</u> 食品卸売業 <u>14 万 t</u> 食品小売業 <u>64 万 t</u> 外食産業 <u>103 万 t</u>																																																																				
85	図 5-1-1 我が国の食品ロス量の推移（平成 24(2012)～30(2018)年度） <table><caption>図 5-1-1 我が国の食品ロス量の推移（平成 24(2012)～30(2018)年度）</caption><thead><tr><th>年度</th><th>事業系食品ロス (万t)</th><th>家庭系食品ロス (万t)</th><th>合計 (万t)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H24 (2012)</td><td>331</td><td>312</td><td>643</td></tr><tr><td>H25 (2013)</td><td>330</td><td>302</td><td>632</td></tr><tr><td>H26 (2014)</td><td>339</td><td>282</td><td>621</td></tr><tr><td>H27 (2015)</td><td>357</td><td>289</td><td>646</td></tr><tr><td>H28 (2016)</td><td>352</td><td>291</td><td>643</td></tr><tr><td>H29 (2017)</td><td>328</td><td>284</td><td>612</td></tr><tr><td>H30 (2018)</td><td>324</td><td>276</td><td>600</td></tr></tbody></table>	年度	事業系食品ロス (万t)	家庭系食品ロス (万t)	合計 (万t)	H24 (2012)	331	312	643	H25 (2013)	330	302	632	H26 (2014)	339	282	621	H27 (2015)	357	289	646	H28 (2016)	352	291	643	H29 (2017)	328	284	612	H30 (2018)	324	276	600	図 5-1-1 我が国の食品ロス量の推移（平成 24(2012)～<u>令和元(2019)年度</u>） <table><caption>図 5-1-1 我が国の食品ロス量の推移（平成 24(2012)～令和元(2019)年度）</caption><thead><tr><th>年度</th><th>事業系食品ロス (万t)</th><th>家庭系食品ロス (万t)</th><th>合計 (万t)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H24 (2012)</td><td>331</td><td>312</td><td>643</td></tr><tr><td>H25 (2013)</td><td>330</td><td>302</td><td>632</td></tr><tr><td>H26 (2014)</td><td>339</td><td>282</td><td>621</td></tr><tr><td>H27 (2015)</td><td>357</td><td>289</td><td>646</td></tr><tr><td>H28 (2016)</td><td>352</td><td>291</td><td>643</td></tr><tr><td>H29 (2017)</td><td>328</td><td>284</td><td>612</td></tr><tr><td>H30 (2018)</td><td>324</td><td>276</td><td>600</td></tr><tr><td>R1 (2019)</td><td>309</td><td>261</td><td>570</td></tr></tbody></table>	年度	事業系食品ロス (万t)	家庭系食品ロス (万t)	合計 (万t)	H24 (2012)	331	312	643	H25 (2013)	330	302	632	H26 (2014)	339	282	621	H27 (2015)	357	289	646	H28 (2016)	352	291	643	H29 (2017)	328	284	612	H30 (2018)	324	276	600	R1 (2019)	309	261	570
年度	事業系食品ロス (万t)	家庭系食品ロス (万t)	合計 (万t)																																																																			
H24 (2012)	331	312	643																																																																			
H25 (2013)	330	302	632																																																																			
H26 (2014)	339	282	621																																																																			
H27 (2015)	357	289	646																																																																			
H28 (2016)	352	291	643																																																																			
H29 (2017)	328	284	612																																																																			
H30 (2018)	324	276	600																																																																			
年度	事業系食品ロス (万t)	家庭系食品ロス (万t)	合計 (万t)																																																																			
H24 (2012)	331	312	643																																																																			
H25 (2013)	330	302	632																																																																			
H26 (2014)	339	282	621																																																																			
H27 (2015)	357	289	646																																																																			
H28 (2016)	352	291	643																																																																			
H29 (2017)	328	284	612																																																																			
H30 (2018)	324	276	600																																																																			
R1 (2019)	309	261	570																																																																			

頁	変更前：第5次計画（素案）	変更後：第5次計画（案）
85	図 5-1-2 我が国の食品ロス量の内訳（平成 30(2018)年度）  出典：家庭系食品ロス：環境省「令和2年度食品廃棄物等の発生抑制及び再生利用の促進の取組に係る実態調査報告書」 事業系食品ロス：農林水産省「日本の食品ロスの状況（平成30年度）」、「令和2年度食品産業リサイクル状況等調査委託事業（食品関連事業者における食品廃棄物等の可食部・不可食部の量の把握等調査）」	図 5-1-2 我が国の食品ロス量の内訳（令和元(2019)年度）  出典：家庭系食品ロス：環境省「令和2年度食品廃棄物等の発生抑制及び再生利用の促進の取組に係る実態調査報告書」 事業系食品ロス：農林水産省「日本の食品ロスの状況（令和元年度）」
86	2. 岡山県の食品ロスの現状 岡山県が推計した平成 30(2018)年度の食品ロス量 12.7 万 t ・家庭系食品ロス量 3.8 万 t ・事業系食品ロス量 8.9 万 t ・岡山県民 1 人あたり 1 日約 180g（家庭系食品ロスのみでは、約 55g） ○食品ロスの内訳 ・家庭系食品ロス - 直接廃棄 1.4 万 t - 過剰除去 0.8 万 t - 食べ残し 1.6 万 t ・事業系食品ロス - 食品製造業 6.3 万 t - 食品卸売業 0.2 万 t - 食品小売業 1.0 万 t - 外食産業 1.4 万 t	2. 岡山県の食品ロスの現状 岡山県が推計した令和元(2019)年度の食品ロス量 12.9 万 t ・家庭系食品ロス量 3.7 万 t ・事業系食品ロス量 9.2 万 t ・岡山県民 1 人あたり 1 日約 186g（家庭系食品ロスのみでは、約 53g） ○食品ロスの内訳 ・家庭系食品ロス - 直接廃棄 1.6 万 t - 過剰除去 0.6 万 t - 食べ残し 1.6 万 t ・事業系食品ロス - 食品製造業 6.7 万 t - 食品卸売業 0.2 万 t - 食品小売業 1.1 万 t - 外食産業 1.2 万 t
86	図 5-1-3 岡山県の食品ロス量（平成 30(2018)年度） 	図 5-1-3 岡山県の食品ロス量（令和元(2019)年度） 

頁	変更前：第5次計画（素案）	変更後：第5次計画（案）
88	1. 食品ロス削減推進法基本方針における削減目標 表 5-2-1 食品ロス削減推進法基本方針における食品ロスの削減目標等  H12(2000)年度から R7(2025)本計画の目標年度までに 家庭系：45%削減 事業系：46%削減 ※令和7(2025)年度の食品ロス量：平成30(2018)年度から令和12(2030)年度にかけて、毎年度、同量ずつ削減していくと仮定して算出した食品ロス量	1. 食品ロス削減推進法基本方針における削減目標 表 5-2-1 食品ロス削減推進法基本方針における食品ロスの削減目標等  H12(2000) 年度から R7(2025)本計画の目標年度までに 家庭系：45%削減 事業系：47%削減 ※令和7(2025)年度の食品ロス量：令和元(2019)年度から令和12(2030)年度にかけて、毎年度、同量ずつ削減していくと仮定して算出した食品ロス量
88	食品ロス問題を認知して削減に取り組む消費者の割合 80% (平成30(2018)年度調査：71.0%)	食品ロス問題を認知して削減に取り組む消費者の割合 80% (令和元(2019)年度調査：76.5%)
89	(1) 県の将来予測 ① 家庭系食品ロス量の将来予測 平成30(2018)年度の生活系ごみ排出量実績(447.3千t)と、令和7(2025)年度の排出量予測(446.7千t)より、平成30(2018)年度から令和7(2025)年度の増減割合を算出し、この割合を、平成30(2018)年度の家庭系食品ロス量(3.8万t)に乗じて、令和7(2025)年度の家庭系食品ロス量を算出。 ② 事業系(食品製造業以外)食品ロス量の将来予測 平成30(2018)年度の一般廃棄物の事業系ごみ排出量実績(229.4千t)と、令和7(2025)年度の排出量予測(236.4千t)より、平成30(2018)年度から令和7(2025)年度の増減割合を算出し、この割合を、平成30(2018)年度の事業系(食品製造業以外)食品ロス量(2.6万t)に乗じて、令和7(2025)年度の事業系(食品製造業以外)食品ロス量を算出。	(1) 県の将来予測 計画目標 ① 家庭系食品ロス量の将来予測 令和元(2019)年度の生活系ごみ排出量実績(460.3千t)と、令和7(2025)年度の排出量予測(446.7千t)より、令和元(2019)年度から令和7(2025)年度の増減割合を算出し、この割合を、令和元(2019)年度の家庭系食品ロス量(3.7万t)に乗じて、令和7(2025)年度の家庭系食品ロス量を算出。 ② 事業系(食品製造業以外)食品ロス量の将来予測 令和元(2019)年度の一般廃棄物の事業系ごみ排出量実績(237.0千t)と、令和7(2025)年度の排出量予測(236.4千t)より、令和元(2019)年度から令和7(2025)年度の増減割合を算出し、この割合を、令和元(2019)年度の事業系(食品製造業以外)食品ロス量(2.5万t)に乗じて、令和7(2025)年度の事業系(食品製造業以外)食品ロス量を算出。

頁	変更前：第5次計画（素案）	変更後：第5次計画（案）
89	③ 事業系（食品製造業）食品ロス量の将来予測 産業廃棄物実態調査結果（平成30(2018)年度）の製造業からの排出量（3,093千t）と、令和7(2025)年度の排出量予測（3,040千t）より、平成30(2018)年度から令和7(2025)年度の増減割合を算出し、この割合を、平成30(2018)年度の事業系（食品製造業）食品ロス量（6.3万t）に乗じて、令和7(2025)年度の事業系（食品製造業）食品ロス量を算出。	③ 事業系（食品製造業）食品ロス量の将来予測 <u>令和元(2019)年度の製造業の排出量実績（3,098千t）</u>と、令和7(2025)年度の排出量予測（3,040千t）より、<u>令和元(2019)年度</u>から令和7(2025)年度の増減割合を算出し、この割合を、<u>令和元(2019)年度</u>の事業系（食品製造業）食品ロス量（<u>6.7万t</u>）に乗じて、令和7(2025)年度の事業系（食品製造業）食品ロス量を算出。
90	（2）食品ロス量の将来予測結果 令和7(2025)年度の食品ロス量は平成30(2018)年度とほぼ同程度となる見込み。	（2）食品ロス量の将来予測結果 令和7(2025)年度の食品ロス量は<u>令和元(2019)年度</u>とほぼ同程度となる見込み。
91	（3）食品ロス量の削減目標 令和7(2025)年度における食品ロス量を、家庭系3.3万トン、事業系8.1万トンとすることを目指します。 平成30(2018)年度の我が国の食品ロス量は、家庭系が276万トン、事業系が324万トンとなっており、令和12(2030)年度目標値を達成するためには、さらに家庭系を21.7%削減、事業系を15.7%削減する必要があります。本県における削減目標もこれに倣い、平成30(2018)年度推計値（家庭系3.8万トン、事業系8.9万トン）を基準とし、家庭系を22%削減、事業系を16%削減し、これにより、岡山県の令和12(2030)年度における食品ロス量は、家庭系3.0万トン、事業系7.5万トンとなります。このことから、令和7(2025)年度の食品ロス量を、家庭系3.3万トン、事業系8.1万トンとすることを目指します（県民1人1日あたり約170g（家庭系食品ロスのみでは約50g））。	（3）食品ロス量の削減目標 令和7(2025)年度における食品ロス量を、<u>家庭系3.3万トン、事業系8.6万トン</u>とすることを目指します。 <u>令和元(2019)年度</u>の我が国の食品ロス量は、家庭系が<u>261万トン</u>、事業系が<u>309万トン</u>となっており、令和12(2030)年度目標値を達成するためには、さらに家庭系を<u>17.2%</u>削減、事業系を<u>11.7%</u>削減する必要があります。 本県における削減目標もこれに倣い、<u>令和元(2019)年度推計値</u>（家庭系<u>3.4万トン</u>、事業系<u>9.2万トン</u>）を基準とし、家庭系を<u>18%削減</u>、事業系を<u>12%削減</u>し、これにより、岡山県の令和12(2030)年度における食品ロス量は、家庭系<u>3.0万トン</u>、事業系<u>8.1万トン</u>となります。このことから、令和7(2025)年度の食品ロス量を、家庭系<u>3.3万トン</u>、事業系<u>8.6万トン</u>とすることを目指します（県民1人1日あたり<u>約176g</u>（家庭系食品ロスのみでは<u>約49g</u>））。